

## KAMA ちゃんの「廃棄物ひとくちコラム」

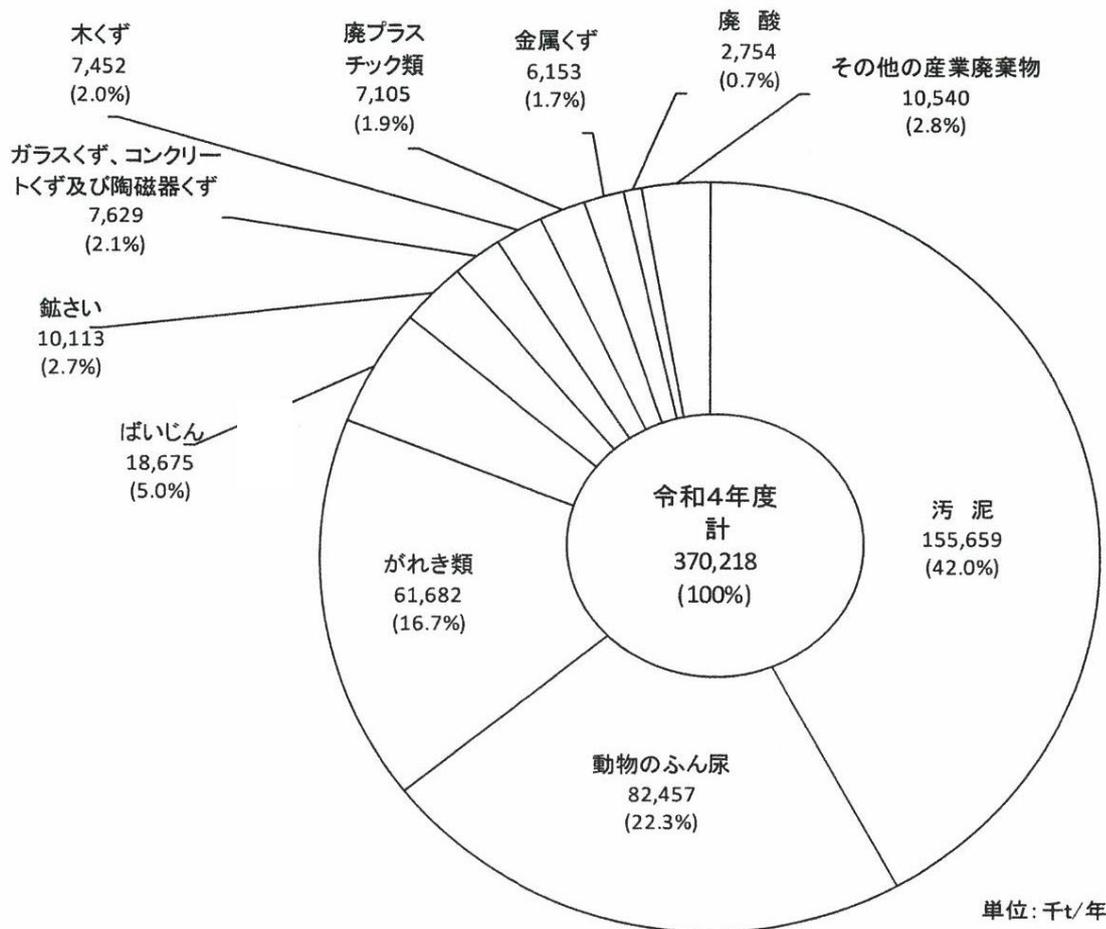
## 産業廃棄物の発生及び処理の状況について（その1）

環境省は毎年、国内における産業廃棄物の発生及び処理の状況を公表していますので、今回はこれについて書いてみたいと思います。

実は、5年前にも同じ題材で寄稿していますが、状況に大きな変化はありません。直近公表データは令和4年度の集計となりますが、総発生量は、3億7千万トンでほぼ横ばい傾向にあり、平成初期のバブル崩壊以後30数年間このレベルで推移しています。高度成長期にはGDPの伸びとともに、発生量は増加してきましたが、排出事業者の減量意識の高まりで、発生自体が抑制されている状況が見てとれます。

次に、種類別発生量について見てみます。

産業廃棄物種類別発生量（令和4年度）



種類別第1位は、「汚泥」、第2位「動物のふん尿」、第3位「がれき類」となっていて、上位3種類で全体の80%以上を占めています。第1位の汚泥の場合は、発生した時点＝つまり脱水前のスラリー状態で数量集計しますのでこんなに大きな値となっています。一例として、含水率99%のスラリー1トンを含水率75%まで脱水すれば20分の1以下の僅か40キロの脱水ケーキとなります。このように汚泥発生量は「水増し」されたものであることを知っておくと何かの時に役立ちます。第2位の動物のふん尿は、畜産農家の自ら処理で再資源化（堆肥化）されるのが一般的で、産業廃棄物処理業者に委託されることは稀です。そういう点で私たちの感覚としては、こんなに多量であるのかと感ずる部分です。第3位のがれき類は6,200万トンほどの発生量となっていますが、全発生量の17%に過ぎない点は、上位2つと反対の意味で意外です。

第8位の廃プラスチック類は、もっと多いと感じられますが、見掛け比重が小さいことから重量換算して集計した結果は、この程度の数値になっています。

参考にですが、一般廃棄物の令和4年度の総排出量は、4,034万トン（し尿・浄化槽汚泥を除く）と集計されていますので、産業廃棄物発生量の約1/9となります。また、一般廃棄物処理は市町村固有の義務として規定されていますので、税金により処理経費（家庭ごみ回収＋中間・最終処分）が賄われていますが、それに投入された総額は、2兆1,500億円（建設費を除く）であり、国民一人当たり換算すると17,000円にもなる計算になります。ちなみに、総額の約2兆円は静岡県の年間予算に匹敵する膨大な金額となっています。

今回は産業廃棄物の発生状況について書きましたが、それがどのような形で処理されているのかは、次の機会に書きたいと思います。